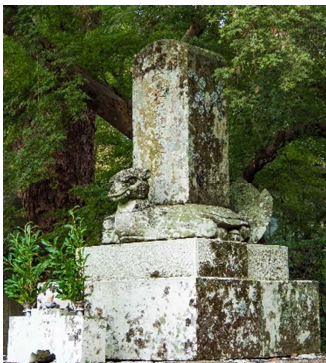


## 【菊池市】

県内では本市にしか見られない「<sup>きふ</sup>亀趺の墓」と呼ばれる菊池一族の墓が 4 基残されています。<sup>たけしげ</sup>13 代武重、<sup>たけみつ</sup>15 代武光、<sup>たけとも</sup>17 代武朝、<sup>まさたか</sup>23 代政隆の墓で、全て市の指定文化財になっています。亀趺の墓とは、<sup>きだ</sup>亀蛇と呼ばれる空想上の生き物の背の上に墓碑が乗った墓のことで、めざましい孝徳を積んだ人にだけ許される特別な墓です。

### ◇武光の墓（神道碑）

<sup>ゆうじざんしやうかんじ</sup>熊耳山正観寺（東正観寺）にあります。正観寺のクスの樹下にあった墓は時代とともに廃れ、江戸時代には荒れ果てていました。文教菊池の祖とされる<sup>しぶえ</sup>渋江<sup>しやうしやうせき</sup>紫陽・松石親子はそれを憂い、菊池一族の顕彰の大きな柱として武光墓所の整備に尽力します。そして、同じ南朝方の立役者<sup>くすのきまさしげ</sup>楠木正成に亀趺の墓が許されるのなら、武光もそうあるべき、と考えます。その願いが成就し安永 8（1779）年、<sup>みなとがわ</sup>湊川神社（神戸市）にある正成の墓に倣って武光の墓が造られました。亀蛇は細面で吊り上がり気味の鋭いまなじりを持つ、とても凛々しい顔立ちです。



武光の亀趺の墓

### ◇武重の墓

先に造られた武光の墓に倣って、文化 13（1816）年、<sup>わたるざんとうふくじ</sup>輪足山東福寺（亘）の<sup>かんきいん</sup>歓喜院と呼ばれていた場所に建てられました。武光の亀蛇よりやや丸顔ですが、切れ長の鋭い目元など武光のものとよく似た、すっきりとした顔立ちをしています。

#### ◇武朝の墓

菩提寺といわれる真徳寺跡（金峰）にあります。前の2基とはやや趣を異にし、亀蛇の顔や体つきは丸みを帯びています。大きな楕円形の目玉が特徴的な亀蛇です。昭和36年に武朝の墓であることが確認されました。

#### ◇政隆の墓

久米原の戦いに敗れ19歳で果てた政隆の墓は、自刃した安国寺（久米一）の裏手にあります。この亀蛇は、初期に造られたものとは比べ、全体的に丸みを帯びた柔らかい体つきが特徴です。丸顔にまん丸の瞳、太くて長い首など愛らしく親しみやすいものとなっています。



政隆の亀蛇の墓

#### 【菊池一族とは】

平安時代から室町時代にかけて、現在の県北部、菊池氏を拠点に活躍した武士の一族です。

菊池一族ウェブサイト <https://www.city.kikuchi.lg.jp/ichizoku/>